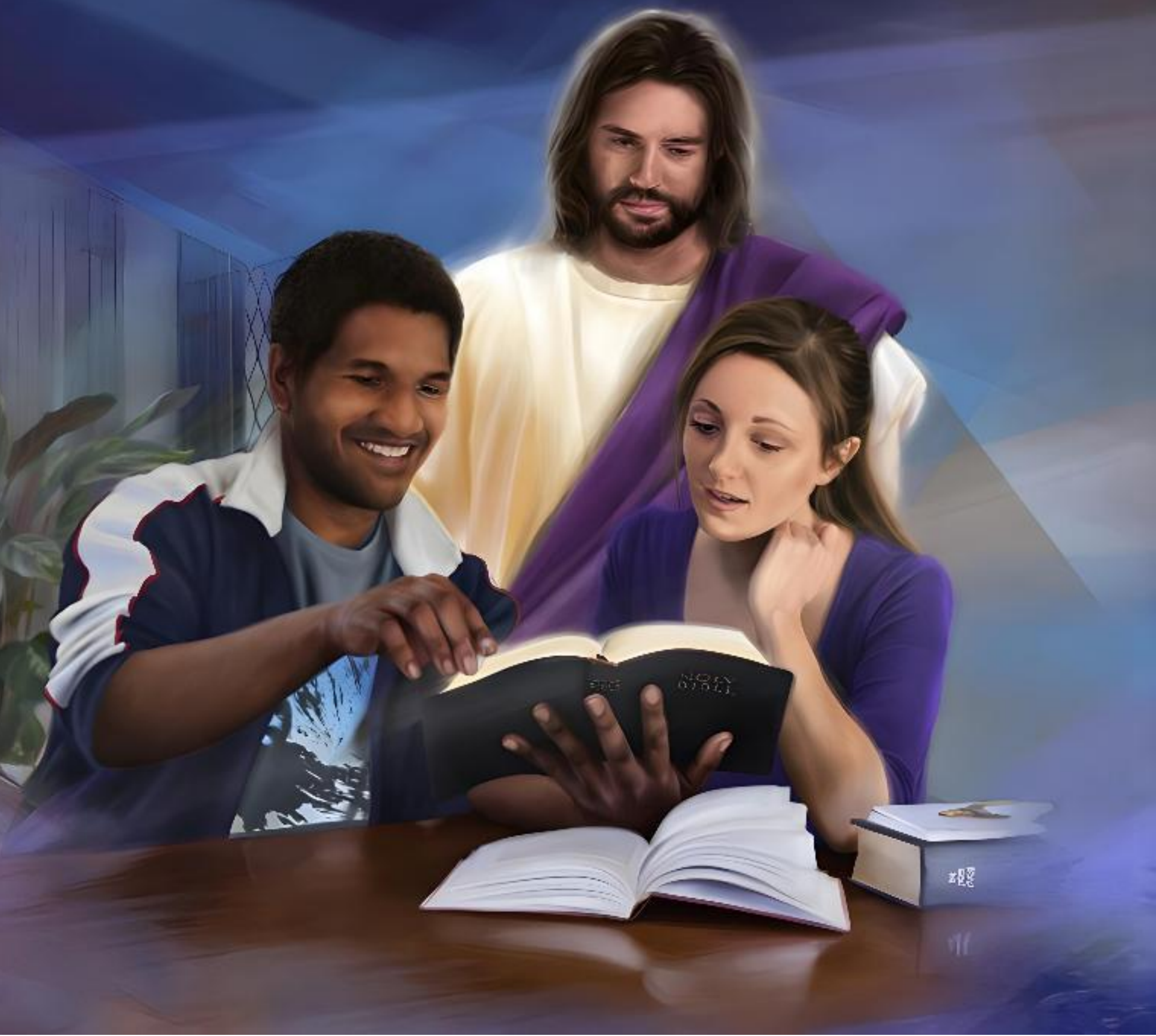
主を伝える

2026年6月20日　第12課

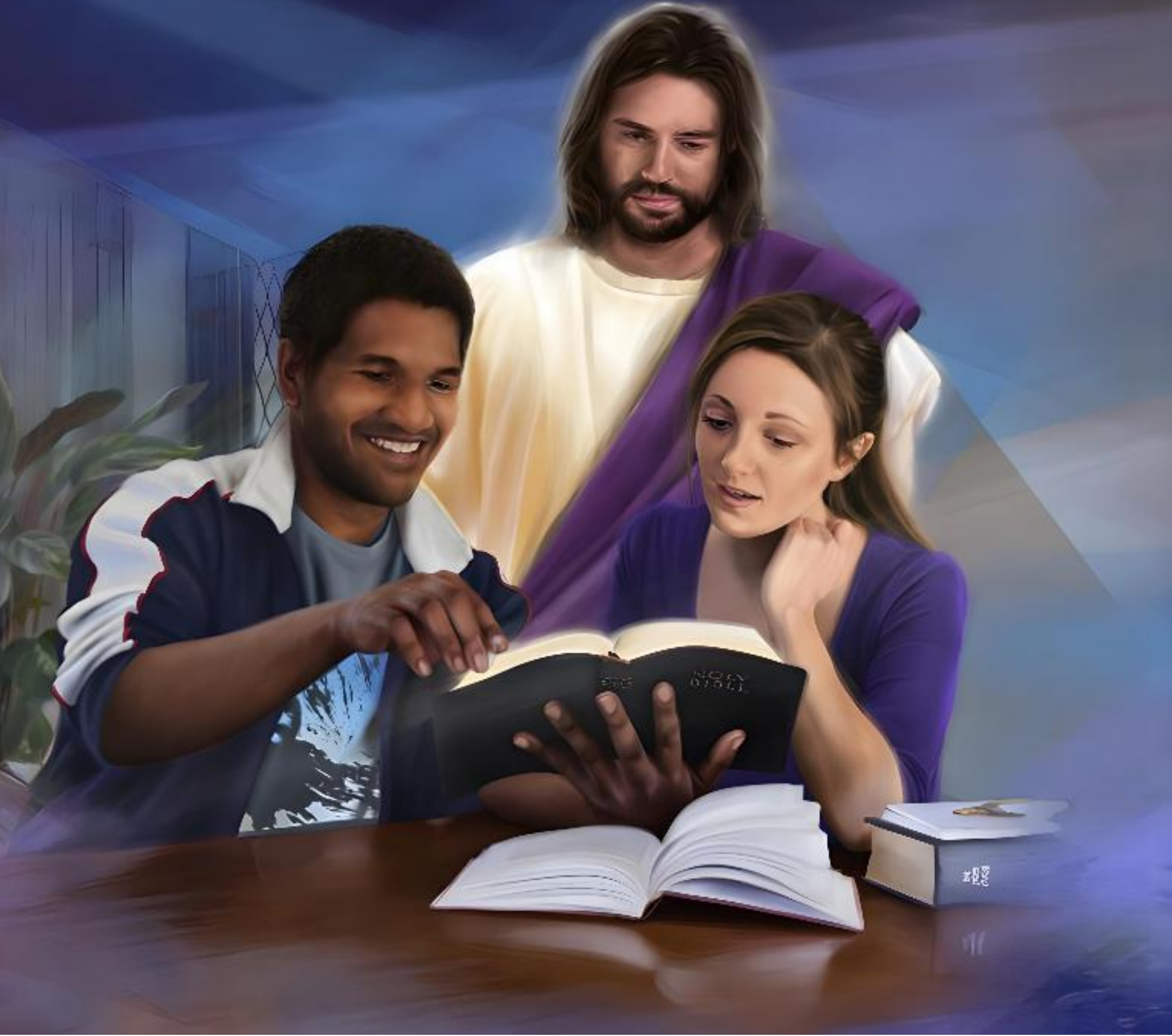
主なる神は、弟子として
の舌をわたしに与え／
疲れた人を励ますように
／言葉を呼び覚まして
くださる。朝ごとに
わたしの耳を呼び覚まし
／弟子として聞き従う
ようにしてくださる。

(イザヤ 50:4　新共同訳)



主なる神は教をうけた者
の舌をわたしに与えて、
疲れた者を言葉をもって
助けることを知らせ、
また朝ごとにさまし、
わたしの耳をさまして、
教をうけた者のように
聞かせられる。

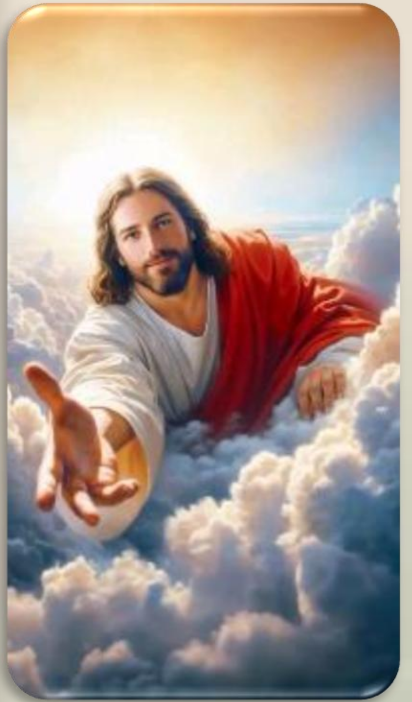
(イザヤ 50:4　口語訳)



何千人もの人々が、イエスを真に理解していません。私たちは彼らを「迷える羊」と呼びますが、彼ら自身、自分が迷っていることさえ気づいていません。誰も説明してくれなければ、どうしてイエスが必要だと気づくことができるでしょうか。

神はこの地球上のすべての人を慈しんでおられ、「すべての人が救われ、真理を知るようになることを望んでおられる」（1テモ 2:4）のです。これには、神を知らない人々だけでなく、神を知りながらその道から背を向けてしまった人々も含まれます。

神は、どのようにしてすべての人々に御言葉を届けることを選ばれたのでしょうか。それは、私たちを通してです。これこそが、私たちの「大宣教命令」なのです。



何を共有すべきでしょうか?

- あふれ出るものから

どのように共有できますか?

- 強制的ではないが力強く
- イエスを伝えるためのヒント

去ってしまった人々を呼び戻す方法?

- さまよう子
- 彼らを連れ戻す

何を共有すべきでしょうか?

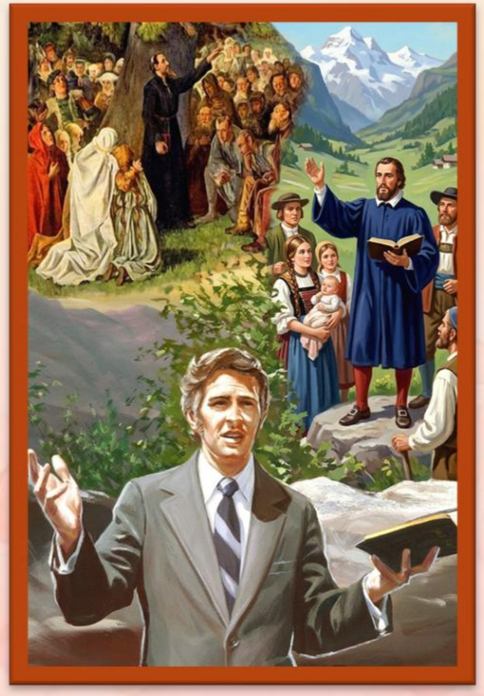
あふれ出るものから

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。
彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、」(マタイ 28:19)

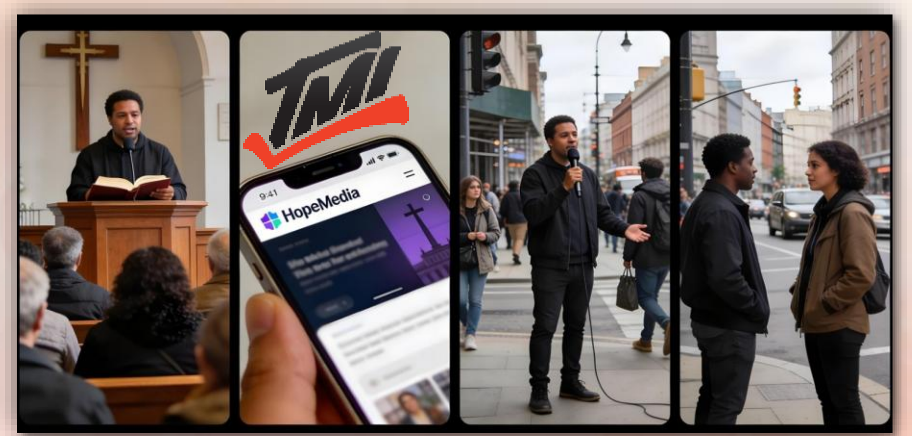
「行って……すべての国の人々を」――これは、復活後のイエスが、自分を見ようと集まった人々に与えた命令でした（マタ28:18-19a）。

彼らには何をすべきだったのでしょうか。それは、行って弟子を作ることでした。つまり、人々と接し、彼らにバプテスマを授け、イエスの弟子となるよう教えることでした（マタ28:19-20）。

その弟子たちは、さらに他の弟子たちを教え……その連鎖は２千年もの間続き……今日に至っています。今、イエスからの使命を受け継ぐのは、私たちなのです。



ペテロやヨハネのように、「私たちが見聞きしたことを語らずにはいられません」（使4:20）。説教壇から語ることも、街頭で叫ぶことも、ソーシャルメディアで証しを分かち合うことも、あるいは単に誰かに伝えるだけでもよいのです。私たちは皆、その一員なのです。



今すぐ祈りの時間を取りましょう。
神があなたの人生に招いてくださる人々に
神につ いて伝える勇気を神に求めましょう。
いつ伝えるべきか、何を話すべきかを
知るため の知恵も求めてください。

Ⅰ ヨハネ 4:7～11 を読み、

4:7 愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者 は皆、
神から生まれ、神を知っているか らです。 **4:8** 愛することのない者は神を知りませ ん。
神は愛だからです。 **4:9** 神は、独り子を世にお遣わしになり ました。その方によって、
わたしたちが 生きるようになるためです。ここに、神 の愛がわたしたちの内に示され
ました。 **4:10** わたしたちが神を愛したのではな く、神がわたしたちを愛して、わたしたち
の罪を償ういけにえとして、御子をお 遣わしになりました。ここに愛があります。
4:11 愛する者たち、神がこのようにわた したちを愛されたのですから、わたしたち も
互いに愛し合うべきです。

このような愛が与えられるように
祈りましょう。

どのように共有できますか?

強制的ではないが力強く

「なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。」
(2 コリント 5:14a)

イエスが「迷い出た羊」を探し求めた動機は何だったのでしょうか（マタ15:24）？

疑いなく、それは私たちに対する神の愛でした（マタ9:36、エフェ5:2）。神はまた、まだイエスを知らない人々と分かち合うことができるように、私たちの心の中にその愛を宿らせてくださいました。時として、人々は自分のためを思って、他人にイエスを受け入れるよう強要しようとします。しかし、それは神が選ばれた方法ではありません。

神はアダムとエバに罪を犯さないよう強制はされなかった。神は洪水以前の人々に箱舟に入るよう強制はされなかった。神はニネベの人々に自分を受け入れるよう強制はされなかった。神は彼らに愛をもって語りかけ、自分たちの道を進むことの結果について警告されたのである。

イエス様を見習うことで、私たちは他の人々にイエス様の愛を示し、彼らをイエス様に従うよう招くのです。

Ⅱペトロ（ペテロ）3:18を読んでください。

3:18 わたしたちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、
成長しな さい。このイエス・キリストに、今も、 また永遠に
栄光がありますように、アーメン。

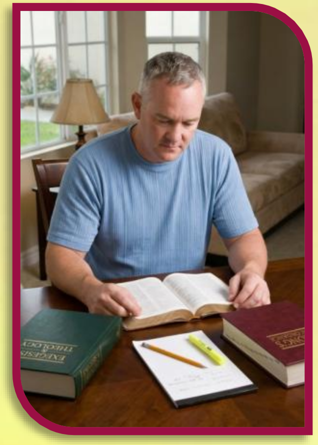
あなたはどのような点で、恵みと知識において、
成長していますか（口語訳：恵みと知識とに
おいて、ますます豊かになっていますか）。
それは、周囲の人々との関わりの中で
どのように表れていますか。

マタ**9:36**（新共同訳）また、群衆が飼い主のいない羊のよ うに弱り果て、
打ちひしがれているのを 見て、深く憐れまれた。
マタ**9:36**（口語訳）また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、
打ちひしがれているのを 見て、深く憐れまれた。

イエスを伝えるためのヒント

「・・あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」(1 ペトロ 3:15)

私たちは皆、イエスの宣教者であり、そのために備えるよう命じられています（1ペト3:15）。しかし、誰もが説教の仕方を知っているわけではありません。それでも、神ご自身が私たちに必要な言葉を授けてくださるという約束があります（イザ 50:4）。



他の人たちにイエスについてより積極的に伝える方法を考える際に、心に留めておきたい簡単なヒントをいくつかご紹介します：

相手を知り、時間をかけて友情を育んでいく

その人の心に聖霊が働きかけてくださるよう祈りましょう。その人と関わる適切な機会が与えられるよう祈りましょう

自分の信仰体験について話す機会を自然に探したり、彼らのために祈りを捧げたりしましょう

新しい友人を、教会の他のメンバーとつなげる方法を探しましょう

新しい友人が抱えているかもしれない具体的な悩みや疑問について、祈りましょう

聖書が私たちの生活にどのような慰めや助言、指針を与えてくれるかを、彼らに伝える機会を探しましょう

いつか、友人に「一緒に聖書を読みませんか」と尋ねたくなる時が来るでしょう。その後、その友人は洗礼を受けたいと思うかもしれません

Ⅰペトロ（ペテロ）3:8～15 を読んでください。

3:8 終わりに、皆心を一つに、同情し合い、兄弟を愛し、憐れみ深く、
謙虚にな りなさい。 **3:9** 悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱 に報いては
なりません。かえって祝福を 祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあな たがた
は召されたのです。 **3:10**「命を愛し、幸せな日々を過ごしたい人は、舌を制
して、悪を言わず、唇を 閉じて、偽りを語らず、 **3:11** 悪から遠ざかり、善を
行い、平和を 願って、これを追い求めよ。 **3:12** 主の目は正しい者に注がれ、
主の耳 は彼らの祈りに傾けられる。主の顔は悪 事を働く者に対して向けられ
る。」 **3:13** もし、善いことに熱心であるなら、 だれがあなたがたに害を加え
るでしょ う。 **3:14** しかし、義のために苦しみを受ける のであれば、幸いで
す。人々を恐れたり、 心を乱したりしてはいけません。 **3:15**心の中でキリス
トを主とあがめなさ い。あなたがたの抱いている希望につい て説明を要求す
る人には、いつでも弁明 できるように備えていなさい。

この箇所で、聖書は私たちに
どんなことを教えていますか。

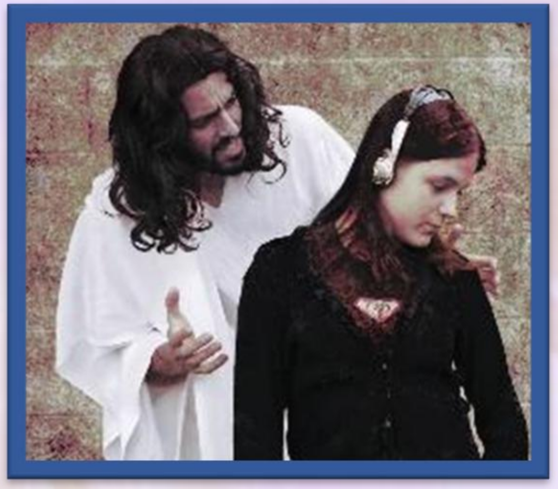
去っていった人々を
呼び戻す方法?

さまよう子

「エフライムはわたしのかけがえのない息子／喜びを与えてくれる子ではないか。
彼を退けるたびに／わたしは更に、彼を深く心に留める。彼のゆえに、胸は高鳴り
／わたしは彼を憐れまずにはいられないと／主は言われる。」(エレミヤ 31:20)

ある時点で、神の民は分裂した。
エフライム（北王国）は神を見捨てたが、
ユダ（南王国）は信仰を守り通した。

エフライムが神に見捨てられたにもかかわらず、神は彼を依然として愛する子として見守っておられた（エレ31:20）。
神は、罪の中で死んでいった息子たちのために泣く祖母ラケルさえも描かれた（エレ31:15）。



神に仕えていたにもかかわらず、後に神を見捨ててしまった人々に対して、神は今も愛をもって呼びかけ続けておられます。彼らは神の子供であり、神は彼らを愛し、執拗に神のもとへ戻るよう促しておられるのです。

かつて信仰を持っていた私たちの子供たちの中にも、信仰を捨ててしまった子がいるかもしれません。しかし、決して彼らに背を向けるのではなく、愛し続け、優しく語りかけなければなりません。神は、彼らが神の最も深い憐れみの対象であることを私たちに思い出させ、彼らが神のもとに戻ってくることを切に願っておられるのです。

これがエフライムの背きに対するラケルの
苦しみへの神の応答であると知ったことで、
主との関係からはなれてしまった知人に
ついて、あなたはどんなことを感じますか。
このことは、あなたにとってどのような挑戦、
あるいは励ましとなりますか。

彼らを連れ戻す

「わたしは彼らを諸国の間にまき散らしたが／遠い国にあっても彼らはわたしに心を留め／その子らと共に生き続け、帰って来る。」 (ゼカリヤ 10:9)

私たちの配偶者、息子、娘、友人、隣人、かつてあの席に座っていたあの兄弟姉妹……かつては私たちと共に礼拝していた彼らですが、今、彼らはどこにいるのでしょうか？

人々が教会を去る理由はさまざまです。私たちは、その理由を裁いたり、動機を批判したり、あるいは単に彼らを無視したりするよう求められているわけではありません。

私たちの使命は、彼らを探し出し、再び群れの中に迎え入れることです。では、どうすればよいのでしょうか。第一に、祈ることです。第二に、彼らに対して愛と優しさの模範となることです。

神から離れてしまった人のために、あなたが示す生き様や行動、言葉、そして祈りは、その人の人生と未来を根本から変える力を持っています。

エフェソ（エペソ）**3:17〜19** は、

3:17信仰によってあなたがたの心の内に キリストを住まわせ、あなたがたを愛に 根ざし、愛にしっかりと立つ者としてく ださるように。**3:18** また、あなたがたがすべての聖なる 者たちと共に、キリストの愛の広さ、長 さ、高さ、深さがどれほどであるかを理 解し、**3:19**人の知識をはるかに超えるこの愛を 知るようになり、そしてついには、神の 満ちあふれる豊かさのすべてにあずか り、それによって満たされるように。

私たちに何をするように奨励していますか。

神は、ご自身の目的を果たすために、他の手段を用いることもできた
はずです。しかし、神は無限の愛をもって、私たちを御自身や
キリスト、そして御使いたちとの『協力者』として選ばれました。
それは、この利他的な奉仕から生まれる祝福、喜び、そして霊的な
高揚を、私たちが分かち合えるようにするためです。[...]もしあなたが、
キリストが弟子たちに望まれる通りに働き、主のために魂を勝ち
取ろうとするなら、神聖な事柄についてより深い経験とより大きな
知識が必要だと感じるようになり、義を渇望するようになるでしょう。
あなたは神に懇願し、信仰は強められ、あなたの魂は救いの泉から
より深く水を飲むようになるでしょう。反対や試練に直面することは、
あなたを聖書と祈りへと駆り立てるでしょう。あなたは恵みと
キリストの知識において成長し、豊かな経験を得ることになる
でしょう」。

EGホワイト (The Way to Christ, pp. 79-80)（非公式訳）